学習内容報告書 フォーマット

学校名	宿毛市立咸陽小学校
授業者	和田　和也

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

広がれ　宿毛の魚プロジェクト ～人と海の繋がりを見つめて～

1-2.　学年

５年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

宿毛湾は県内でも有数の養殖業が盛んな地域である。そこで、５年生では「海を利用する」をテーマに探究活動を行ってきた。漁業普及指導員を講師として招きいろいろな漁法、餌や魚の種類、出荷方法等に目を向けさせた。中でも宿毛湾で盛んな養殖業を中心に、捕って終わりの漁業から育てる漁業の重要性を認識させた。実際に養殖場に行き餌やり体験を見学することで漁業に携わる人々の仕事ぶりや魚に対する思いを感じ取らせていった。それらの活動の中で子供達は、海の利用によって生活が豊かになっていることを実感してきた。子ども達の保護者には養殖業や定置網漁に従事している人もいるため、彼らを講師として招きながら活動を進めていくなかで、社会科との関連を図り国内の水産業の漁獲高にも目を向けさせ、日本の漁業が置かれている現状についても考えさせた。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

宿毛湾で漁業に携わる人達の仕事を探究的に調べる活動を通して、海への思いを知るとともに、海と人とのつながりを考え、学習した内容を視点を決めて分類したり、発信する内容を焦点化したりして考え、相手や目的を明確にして表現する力を育成するとともに郷土（ここ）を大切にしようとする態度を養う。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

【知識・技能】地域の水産業の重要性やそれに携わる人々の思いを理解する。

【思考・判断・表現】◆情報収集から得た事実や関係を、比較､分類、整理、分析したり関連づけたりしながら理解し、多様な情報の中にある特徴を見つけている。

◆学習したことをふり返り、考えを整理するとともに自分の生活や地域の未来について考えようとしている。

1-7.　単元の展開（全７０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	○４年生の時はどんな活動を行ってきたのかな。 ○写真、表、グラフから気付いたことを発表し疑問点を見つける。	○これまでの活動を想起させこれからの学習活動につなげる。 ○昨年の活動写真やグラフを活用する。 ○小割の写真に注目させ養殖について興味を持たせる。 ○自分の親の職業にも注目させる。
2	○出てきた疑問点をもとに課題設定を行う。 「広がれ宿毛の魚プロジェクト」 ～人と海の繋がりを見つめて～	○疑問点から、課題を設定する。 ○なぜ宿毛湾では多くの魚養殖されているのか。どのような種類の魚がいるのか、漁獲量が多いのはなぜかなどを考えさせ課題とする。
15	○市役所の水産課の職員や養殖業に携わる人を招いて養殖への思いを聞く。 ○養殖漁業について調べる。 ○魚の餌や小割り、養殖されている魚について調べる。 ○これまでの体験活動から知った情報を整理する。 ○これまでの活動をまとめる。	○調べ学習では限界があるため、市役所や業魚普及所の人を招き情報収集する。 ○宿毛湾の漁→養殖漁業へと焦点化していく。 ○友達と協働的に学習を進め学びの共有化を図っていく。 ○１学期（本年度は８月５日まで）のまとめを行い今後の方向性について考える。
27	○渡船を使って海に出て養殖餌やり体験・見学を行う。 ○餌会社の担当の方から、餌の変化や魚種によって変化する餌の配合及び与え方について学ぶ。 ○餌の違いによって変わってきた宿毛湾の水質の変化について学習を深める。 ○食の安全について考える。 ○これまでの活動のまとめを行う。	○地域の渡船業者に見学を依頼し鯛とブリの餌やりを見学する。 ○鯛の出荷を見学する。 ○見学を通して、餌について気付かせ、調べ学習を深める。 ○餌会社の担当者さんから餌の種類や水質の変化について情報を収集する。 ○トレーサビリティについて知らせる。

21	○これまでの取り組みを発信する方法を考える。 ○リーフレットにして発信する。 ・表題、内容について考える ・リーフレットの配色について考える ・置く場所について考える	○宿毛の魅力を発信するためにはどうするか考えさせる。 ○消費者の立場で考えさせ、知りたい内容は何かを話し合わせる。 ○買い物をする人の立場に立つとほしい情報、宿毛の魅力発信の観点から考えさせる。
3	○総合的な学習の時間発表会においてこれまでの学びを地域の人や保護者に伝える。 ○これまでの学びを振り返る。	○分かりやすく伝えるようにする。 ○聞く人の立場に立って発表させる。

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　70　時間中の　21～24　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

鯛やハマチの養殖場の見学を通して、養殖魚の餌について興味・関心を持つとともに専門家から養殖の餌について話を聞き、宿毛湾で魚に与えられている餌と環境との関係を考える。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　養殖場の見学をする。(池島漁港から出航) ・ハマチの養殖場の見学 ・たくさんの餌が機械で撒かれているね。 ・餌の種類は何で作られているのかな。 ・どこで作っているのかな。 ・魚は何匹いるのかな。	○安全に気を付けて見学することを伝える。 ○ライフジャケットの確認をする。 ○餌の量や人の動き、魚の動きに注目させてみさせる。
2　学校に戻り、餌の専門科の話を聞く。 ・餌の種類 ・餌の作り方 ・餌の量 ・環境に与える影響　等	○映像を使いながら説明してもらう。 ○実際の餌をもってきてもらうようにする。 ○海の環境が以前より改善されたことと、餌の進化との関係を考えさせるようにする。
3　体験やこれまでの情報収集を通して疑問に思っていることを質問する。	○ころまで PC では調べることが出来なかったことを中心に質問する。
4　活動を振り返る。	★餌と海の環境の関係について考えることが出来たか。 ○学んだことを振り返りシートに記録する。

3.　今回の活動の自己評価

本年度も、４年生での学習活動を想起させることからスタートした。本年度の５年生は３年生でヒラメの放流をするなど体験を重ねてきている。５年生では、養殖に特化することで宿毛湾の産業を考えさせることとした。単元が進むにつて子供達の疑問が多く出されたため、専門家を招き情報収集を行った。そうすることで、子供達は、海に関する知識を多く習得した。また、体験を重視し養殖場の見学を行った。そこで餌について興味がわき、餌の改良が宿毛湾の水質保全に大きな影響を与えていることを知った。体験活動を多く取り入れることで宿毛湾の漁業の現状について深く学ぶことができた。本年度も新型コロナウイルスの影響で魚の料理体験はできなかったが、宿毛湾では多くの魚が養殖され地域の産業において大きな役割をはたしている事やそこで育てられた魚が都市に送られこの国の食文化を支えていることに気づくことが出来たと感じている。また、これらの活動を通して、人々の活動と環境、食文化などは密接に繋がっていることを実感することができた。

4.　今後の課題

◆新型コロナウイルスの影響で魚料理の体験はできなかったが、コロナが終息したら地域と連携して食に関しても学びを広げていく必要がある。

◆来年度は、宿毛湾で養殖された魚がどのようにして都市に運ばれていくのか、運送会社などと協力しながら学習することで学びが深まると考えている。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし